

平成25年度「市長と語りあう会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
平成25年11月6日(水)	安田地区振興センター	19:00～20:15	13	9	22

○市側出席者

市長、総務部長、経営企画部長、秘書広報室長

2 会の概要

○開会（秘書広報室長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

安田地区からは様々な行事の招待を頂いているが、幅広い年齢層が一体となってより良い地域にするために活動されているという印象を持っている。

市全体の人口が減少傾向にある中で、過去1年間の推移をみると、この地区は人口、世帯数共に増えている。安田地区の取組みを市全体に広げていきたい。

以下、今後取組むこととその現状について重点的に話をする。

(1) 行財政改革

- ・ 現在平成25年度から平成32年度までの8年間の新しい「行財政改革計画」の策定作業に取り組んでいる。12月議会において計画を示す予定でいる。平成25年度から平成28年度までの前期4年間を集中期間とする。
- ・ 地方交付税について、市町村合併後10年間は合併前の基準で交付税が措置されているが、今後は段階的に減額されていく。現在の交付税額は90億円だが、今後段階的に減額されていき、5年後には78億円となり、平成32年度からは78億円が続いていくことになる。したがって、今後は財政を切り詰めていかなければならない。
- ・ 財政削減に取り組むには、市の経費だけでなく、事務費や補助金も削減せざるを得ない。極力市民生活に関わりの少ないことについての削減を行うが、今後市民のみなさんにも説明していく。

(2) 人口拡大計画

- ・ 人口拡大については、社会増(転入増、転出減)、自然増(出生増、長寿)だけでなく、交流人口拡大も含めて取り組む。交流人口については、一時的に益田市に滞留される方であるが、益田市に来られる頻度や機関が増えれば定住人口にもつながっていくので、そのような工夫をしていく。
- ・ 人口拡大事業を実行性のあるものにするために、その財源確保のためにも行財政改革が必要と思う。したがって、行財政改革と人口拡大は表裏一体のものとして捉えている。
- ・ 人口拡大策の具体例としては、乳幼児医療費の補助を拡大したいと考えている。
- ・ 人口拡大計画は3月議会に提案する。

(3) その他の重点事項

① 萩・石見空港

ア 東京便

- ・ 現在「羽田発着枠政策コンテスト」に応募している。これは、羽田空港拡張に伴い15便の増枠があり、その内3便については、航空会社と地元自治体等の共同提案を受け、その中の上位3提案に対して枠を配分するものである。県、萩・石見空港利用促進協議会とANAが応募し、11月6日に説明を行った。採択されれば、2年間は2便化が可能となり、東京での業務も1泊2日で可能となり、また、羽田→萩・石見の利用者も増えることが期待される。

イ 大阪便

- ・ 大阪便は定期運行について要望している。

② 山陰自動車道

ア 浜田・三隅間(浜田―西村、西村―三隅)

- ・ 浜田・西村間は平成26年度末に開通見込みで、西村・三隅間は平成28年度開通見込みである。
- ・ この間全体が整備されると13分短縮される

イ 三隅・益田間(15km)

- ・ 平成23年度末に事業化が決定された。今、調査、設計、測量中で、昨日から地元説明会が始まっている。
- ・ 三隅・益田間では、三隅、岡見、鎌手、遠田のインターチェンジが設けられる。
- ・ 「2020年度までに安来・益田間が全線開通して欲しい」ということを統一目標としており、これが実現されるように努める。全線開通には、2,400億円が必要とされているが、年間約200億円の予算が措置されている現状では、12年を要することになる。
- ・ 国、県と協力し該当する地区のみなさんの意向もしっかり伺って事業を進めていきたい。
- ・ 早期開通のためにも用地買収にはご協力をお願いしたい。

ウ 萩・益田間

- ・ 萩・益田間の60kmについて、これまでは事業化も決まっていなかった。このたび優先区間絞り込み調査区間になり、60kmの中のどこを優先するかという調査が始まることになった。
- ・ 今年夏の豪雨では、国道9号、191号共に不通になった。国道9号では、連続雨量が200mmを越えると通行止めになる区間があるが、今年は2回もそういう事態があった。山陰自動車道が開通すれば、山陰道から津和野、山陰道から徳佐に通じることが出来ることから、災害時のバイパス(代替)機能も発揮出来ることが再認識された。こうした実状を訴え、早期着工、開通を目指す。

(4) 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ① 萩・石見空港の利用促進について
- ② 介護施設の誘致について
- ③ 行財政改革と人口拡大策について
- ④ 津波時の避難所について
- ⑤ 津波時の避難方法について
- ⑥ 災害時の対応について
- ⑦ 市長選挙と市議会議員選挙の日程について
- ⑧ 市長と市議会議員との関係について
- ⑨ 豪雨による市道災害の復旧について

○ 閉 会 (秘書広報室長)

平成25年度「市長と語りあう会」

開催日時：平成25年11月6日(水)19:00～20:15

会場 安田地区振興センター

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 萩・石見空港の利用促進について 益田圏域だけで利用促進に取り組んでも利用者は少ない。関東圏域で利用促進に取り組んでいるのか。</p>	<p>① 萩・石見空港の利用促進に取り組むには、首都圏の人たちに利用してもらうことが大切であると認識している。萩・石見空港の周辺人口は多く見ても20万人であるのに対して羽田空港周辺である首都圏には3,000万人の人が住んでいる。 萩・石見空港の利用者数の変遷を見ると、東京便の最低が平成18年の42,000人。平成22年度が50,000人を越え、平成23年度に60,000人を越えた。平成24年度は66,000人で平成25年度は目標の70,000人を超えそうである。 利用者が伸びている要因は、東京からの観光客が伸びていることがある。以前、羽田発が朝7時頃の便があったが、これでは首都圏の人は利用しにくい。これが今は11時台になり利用しやすくなった。 また、岩国錦帯橋空港が出来て利用者が減ると懸念していたが、逆に増えた。その理由は、萩・石見空港に着いて津和野、萩を回って岩国錦帯橋空港から出発するルートや、萩・石見空港に着いて石見銀山、出雲大社を回って米子空港から出発するルートが出来たことで、萩・石見空港の利用者が増えたことによる。 しかし、益田での食事や買い物は増えていないので、益田市が通過点になってしまっている。益田市の観光商品をPRするとともに、コンベンションの誘致も検討している。</p>
<p>② 介護施設の誘致について 益田市の介護施設を誘致することで市の活性化を図ることは考えられないか。</p>	<p>② 今日都会においても高齢化が進んでおり、介護事業は大きな市場となっている。しかし、介護施設を誘致するには2つのポイントがある。 まず、介護サービスにおいては、サービスを受ける場所の保険者がその費用を負担するために、益田市の介護費用負担が増えることがある。したがって、サービスを受ける人(都会の人)の住所地の保険でサービスを受けるように出来ないか要望している。 もう一つは介護の職場が増えても、益田市の給与水準が低いため就職希望者が見込みにくいという点がある。</p>

要 望 事 項 等	回 答
<p>③ 行財政改革と人口拡大策について このことはどこの自治体も取り組むべき課題であるが、市長としてどういう事業を柱にするかをPRして欲しい。そのことがまだわかり難い。また、告知端末を使って、市長の声で市長の政策のポイントをPRして欲しい 益田市の良さを市民が誇れるようにならなければ、他から人は来ない。特別養護老人ホームも市外からの利用者を求めるまでもなく市民の中にも待機者が多い。</p>	<p>③ 行財政改革はどこの自治体でも取り組んでいるが、益田市は遅れていると思う。 人口拡大策については、子どもや教育の面の施策をPRしていきたい。 さらに、転出減のためには職場づくりに取り組む。 告知端末を使った広報については、すぐに検討する。</p>
<p>④ 津波時の避難所について 津波ハザードマップでは、最寄りの避難所は安田地区振興センターとなっているが、医師会病院はどうかか。</p>	<p>④ 津波時に職員を配置する場所は限定される。安田地区振興センターには職員を配置するが、医師会病院には職員は配置されないが、地区振興センターに行くことが危険な場合には医師会病院に職員が配置されることもあり得る。 避難場所は、一時的避難の場合と避難期間が長い場合とでは対応が異なる。 また、災害の種類と程度によっても避難場所や方法が異なる。</p>
<p>⑤ 津波時の避難方法について 地元の歴史書では、なめら堤(標高55m)まで津波が到達したとの記録がある。(市職員は否定的であったが。) 洪水時の地図と津波時の地図をひとつにすることは出来ないか。 また、避難経路も不明確である。</p>	<p>⑤ 津波について、先日に避難訓練では10mの津波という想定であったが、県の想定に基づく、益田市での津波の最高到達点が標高3mであったことから、ハザードマップではそのように示した。 ハザードマップの意味は、普段からこの地図を見て頂いて、標高の高い場所を確認しておいて頂きたいという趣旨である。 避難経路をきちんと指示することは、担当課では手が回らない。公による援助は限られるので、各地区で想定して意識しておいて頂きたい。</p>
<p>⑥ 災害時の対応について 防災訓練は勉強にはなったが、地元には防災組織も出来ていないし、今後はどうしていいか不安である。 また、災害時の避難所である医師会病院については、建物の中も利用可能か。</p>	<p>⑥ 防災訓練は防災意識を高める狙いだが、それ以外は十分手が回らない。したがって、自主防災組織について話を聞きたいというような要請があれば、出向いていくのでそのようにして欲しい。 医師会病院の利用については、その時々災害や避難の状況を見て医師会側も判断されると思うし、市からも依頼する。</p>

要 望 事 項 等	回 答
<p>⑦ 市長選挙と市議会議員選挙の日程について 市長選挙と市議会議員選挙を同一日に実施することは出来ないか。</p>	<p>⑦ 仮に市長が辞職することで同一選挙になる可能性はあるが、現市長が再び当選したらその市長の任期は、現市長の残任期間までとなり、また同じことになる。</p> <p>また、市長が議会を解散するのは、(国会とは異なり)市長不信任が可決され、その対抗措置として市長が議会を解散する方法があるが、選挙の日を同一にするためというのでは現実的でない。</p>
<p>⑧ 市長と市議会議員との関係について 例えば、学校給食センターの問題のように、市長と市議会議員との癒着があるではないか。</p>	<p>⑧ そういうことはない。新学校給食センターについては、市議会の理解が得られるように市としても色々試行錯誤した後提案し、全議員ではないが過半数の賛成を得て可決されてものである。</p>
<p>⑨ 豪雨による市道災害の復旧について 夏の豪雨で遠田八幡宮東側の四差路からさらに30m東側の市道が被災した。復旧対策の見通しはいかがか。</p>	<p>⑨ 現地については職員が状況を把握し、9月議会において補正予算が可決されている。今後の復旧対策については状況を確認する。</p>

